

「誤嚥性肺炎」についてご存じですか？

■ 誤嚥性肺炎とは？

飲食物や唾液などを飲み込む動作を「嚥下（読み方：えんげ）」と言います。高齢者になると嚥下機能が低下し、本来なら食道から胃へと送られるものが、誤って気道の一部である気管に入ってしまうことがあります。これが「誤嚥（読み方：ごえん）」です。このとき唾液や逆流した胃液と共に細菌が肺に入り込んでしまうことによって引き起こされる肺炎のことを「誤嚥性肺炎」といい、高齢者がかかりやすい肺炎のひとつです。誤って気道に入った時に咳で排出する反射が弱ってくることも「誤嚥性肺炎」の原因のひとつです。



早めに気づき
対応することがとても大切です。

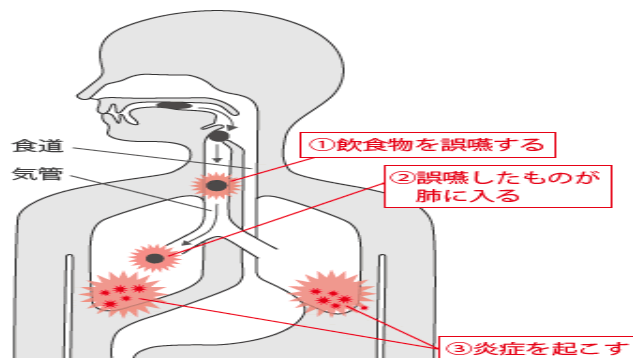


■ 誤嚥性肺炎の症状とは？

誤嚥性肺炎には、発熱、激しい咳が出る、膿のような痰が出る、呼吸が苦しいなどの特徴的な症状があります。しかし高齢者の場合にはこのような特徴的な症状が見られないことも多く、以下のように無関係のような症状が見られる場合でも、誤嚥性肺炎の可能性を考える必要があります。

- 夜間に咳き込む
- 何となく元気がない
- 食事にかかる時間が長い
- ぼーっとしていることが多い
- 食べ物を飲み込む前後にむせる
- 口の中に食べ物をため込んで飲み込まない

一般的な誤嚥性肺炎発症の図



これらの症状が見られる場合、
まずは当院の医師にご相談ください。